

令和 4 年度

事業報告書

令和 5 年 6 月

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

目 次

	ページ
1 管理部門	
（1） 法人の概要	3
（2） 理事会・評議員会等	4
2 事業部門	
1 「精神障害者等」の社会参加への支援	
イ 精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）	
① 精神科デイケアの実施	
a デイケア事業概況	5
b 令和4年度に在籍した通所者の概要	5
c 年度別通所開始者・終了者数	6
d 年度別通所終了者の理由	6
e 通所希望見学者及び受理面接者数	6
f デイケア年間行事実施状況	7
g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況	7
h 地域生活支援事業	7
② O B会活動支援	
a アフターケア（O B会）関連業務	7
③ 家族会活動支援	
a 家族会関連業務	8
ロ 障害者就労支援事業	8
ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業	8
（1） 多機能型事業所の運営	
① 就労継続支援B型事業所の運営	
a メンバー構成	9
b 福祉手帳取得状況	9
c 通所者数	9
d 工賃	10
e 活動内容	10
② 就労移行支援事業所の運営	12
③ 就労定着支援事業の運営	12
（2） 相談支援事業所の運営	
① ココクルの運営	12
2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及	
イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業	
① 地域精神保健スタッフ等研修事業	
a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座	13
② 実習生、見学の受け入れ事業	
a 施設見学等来所者状況	13
b 実習受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ	13
③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業	13
④ 市民講座の開催	13
⑤ 障害者のスポーツ振興への協力	13
⑥ 精神障がい者地域移行研修事業の実施 （北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））	
a 地域移行研修会打ち合わせ	14
b センター長会議	14
c ピアサポーター会議	14
d ピアカウンセリングセミナー	14
e 全道ピアサポーター研修	15
f 地域移行研修	16
g オンデマンド研修	16
ロ 高次脳機能障害者支援事業等	
① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】	17
ハ ひきこもり対策推進事業	
① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営	
② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営	
a 相談支援実施状況	20
b 支援ネットワークの構築等	21

c 普及啓発、事業概要説明	2 3
③ 研修会	2 3
3 会計部門	
貸借対照表	2 4
正味財産増減計算書	2 6
正味財産増減計算書内訳表	2 8
財産目録	3 0
財務諸表に対する注記	3 1
収支計算書	3 4
収支計算書に対する注記	3 6
4 監査報告	
監査報告書	3 7
資料編	
1 理事・監事・顧問・参与・評議員名簿	3 8
2 財団法人設立の経過等	3 8
3 施設の概要	3 9
4 基本財産	3 9

1 管 理 部 門

(1) 法人の概要

【事業内容】

公益財団法人北海道精神保健推進協会は、精神保健思想の啓発普及と精神障害者等(メンタルヘルスケアの諸問題を抱える人を含む。)の社会参加を促進し、精神障害者等の福祉の向上に寄与することを目的として運営しており、定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- ・精神保健思想の啓発普及
- ・精神障害者等の社会復帰のための医療施設(デイケア及び診療所)の設置及び運営
- ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
- ・障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業・特定相談支援事業
- ・障害者地域生活支援センター等の相談支援事業に対する指導援助
- ・精神障害者等の就労・雇用に向けた支援
- ・地域精神保健・医療・福祉充実のための支援
- ・精神保健医療福祉に関する調査研究
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

○法人の主な事業

精神障害者の社会復帰や社会参加の促進を図ることを目的に、精神科デイケア施設(独立型)である「こころのリカバリー総合支援センター」を運営するとともに、多機能型事業所として、就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」、就労移行支援事業所「こことスタ」、就労定着支援事業所を運営している。また、相談支援事業所「ココクル」を設置している。

「リカバリーセンター」では医学的管理のもとに、通所者への個別的相談や指導、社会的自立のための基礎的訓練、生活指導、作業訓練、レクリエーション、体力づくりなどを週間プログラムに沿って実施している。

また、北海道から委託事業として、高次脳機能障害者の受け入れ(平成16年度～)や精神障害者の入院から地域生活への移行支援事業の実施(平成19年度～)、「北海道ひきこもり成年相談センター」の運営(平成21年度～)を行うほか、札幌市からの委託事業として、「札幌市ひきこもり地域支援センター」(平成27年度～)の運営を行っている。

【役員】 理事9名・監事2名・評議員11名

※氏名等資料編(38P)に掲載

【法人職員】(合計19名:常勤職員 11名、非常勤職員 8名)※R5.3.31現在

○「こころのリカバリー総合支援センター」

- ・常勤職員 8名〔所長(医師・理事長)、事務職員1名、精神保健福祉士4名、作業療法士1名、保健師1名、(精神保健福祉士・兼務1名)〕
- ・非常勤職員 2名〔医師1名、事務職員1名〕

○就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 2名〔管理者(精神保健福祉士)、職業指導員(精神保健福祉士)1名、〕
- ・非常勤職員 6名〔生活支援員 1名、目標工賃達成指導員 1名、調理員 4名〕

○相談支援事業所「ココクル」

- ・常勤職員 1名〔管理者(精神保健福祉士)、(相談員(精神保健福祉士・兼務))〕

(2) 理事会・評議員会等

区 分	年月日、会場等	議事等の内容
当法人監事による令和 3 年度 決算等監査	令和 4 年 5 月 19 日 於：こころのリカバリー総合 支援センター	令和 3 年度 事業の実施状況、 予算執行状況、財産目録等関係 帳票の監査 (出席) 監事 2 名
令和 4 年度第 1 回理事会	令和 4 年 6 月 2 日 オンライン開催	令和 3 年度 事業報告、決算報 告及び令和 3 年度補正予算等
令和 4 年度第 1 回評議員会	令和 4 年 6 月 21 日 オンライン開催	令和 3 年度 事業報告、決算報 告及び令和 3 年度補正予算等
令和 4 年度第 2 回理事会	令和 4 年 6 月 21 日 書面表決	理事長、副理事長、常務理事の 選定について
令和 4 年度第 3 回理事会	令和 5 年 3 月 13 日 オンライン開催	令和 5 年度事業計画、収支予算 等
令和 4 年度第 2 回評議員会	令和 5 年 3 月 24 日 オンライン開催	令和 5 年度事業計画、収支予算

2 事業部門

1 「精神障害者等」の社会参加への支援

イ 精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）

① 精神科デイケアの実施

a デイケア事業概況

	R4				R5								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数	21	20	22	21	22	21	21	21	16	20	20	23	248
月間在籍者数 下段：高次脳再掲	145	144	144	145	145	145	145	146	146	146	145	148	
	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	
延べ出席者数 (デイケア等) 下段：高次脳再掲	626	664	666	640	679	643	565	547	571	476	523	591	7,191
	25	30	35	29	27	27	31	31	33	29	36	41	374
通所開始 下段：高次脳再掲	3		1	1	2		1	2				3	13
								1					1
通所終了 下段：高次脳再掲	1	1		2		1	1			1		3	10
一日平均出席数	29.8	33.2	30.3	30.5	30.9	30.6	26.9	26.0	35.7	23.8	26.2	25.7	29.0

b 令和4年度に在籍した通所者の概要

表. 1-1 通所者の件数

	男	女	計
前年度から継続	103	39	142
当年度に通所開始	8	5	13
計	111	44	155

表. 2-1 通所者の年齢

年齢区分	男	女	計
10～19歳	3	1	4
20～29歳	23	15	38
30～39歳	35	12	47
40～49歳	30	11	41
50歳以上	20	5	25
計	111	44	155
平均年齢	38.5	35.8	37.2

表. 3-1 疾患別状況

	人数	構成
F2 統合失調症	40	25.8%
F3 気分（感情）障害	43	27.7%
F4 神経症性障害	22	14.2%
F6 人格障害	0	0.0%
F7 精神遅滞	4	2.6%
F8 発達障害	29	18.7%
F9 行動および情緒の障害	6	3.9%
G4 てんかん性障害	2	1.3%
G9 神経系のその他の障害	0	0.0%
高次脳機能障害（※）	9	5.8%
計	155	100%

※疾患別状況（高次脳機能障害内訳）

	人数	構成
F04 器質性健忘症候群	7	77.8%
F06 脳損傷、脳機能不全および 身体疾患による他の精神障害	1	11.1%
F07 器質性パーソナリティ行動障害	1	11.1%
計	9	100%

表. 4-1 通所年数

通所年数区分	通所者	終了者	計
1年未満	13	0	13
1年以上～3年未満	34	2	36
3年以上～5年未満	18	5	23
5年以上～10年未満	49	3	52
10年以上	31	0	31
計	145	10	155
平均通所年数	6年6ヶ月	4年3ヵ月	6年5ヶ月
最短通所年数	24日	1年11ヶ月	
最長通所年数	25年3ヶ月	6年10ヶ月	

表. 5-1 出席状況

通所日数区分	在籍者	終了者	計
50日以下	98	8	106
51日以上～100日以下	20	1	21
101日以上～150日以下	15	1	16
150日以上～200日以下	8	0	8
201日以上	4	0	4
計	145	10	155
平均通所日数	47.9	22.5	46.1

c 年度別通所開始者・終了者

（高次脳機能障害 再掲）

（単位：人）

年 度	通所開始者	通所終了者
昭和63年度～令和3年度 高次脳機能障害	943 46	795 40
令和4年度 高次脳機能障害	13 1	10 0
計	956 47	805 40

d 年度別通所終了者の理由

	年 度	就労・就学	事業所	在宅	中断	入院	死亡	その他	計
総数	昭和63年度～令和3年度 （高次脳機能障害 再掲）	134 (4)	175 (15)	164 (10)	40	229 (6)	11 (2)	40 (3)	793 (32)
	令和4年度 （高次脳機能障害 再掲）	2	2	2	0	2	0	2	10 0
	総計	136 (4)	177 (15)	166 (10)	40	231 (6)	11 (2)	42 (3)	803 (32)

e 通所希望見学者及び体験者数

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
見学・体験者数	精神科デイケア	1	4	8	5	5	3	3	3	1	3	3	3	42
	高次脳機能障害	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3

f デイケア年間行事実施状況

月	日	行事名	人数 (メンバー)
4	29	特別デイケア	30
5	3	特別デイケア	22
7	18	特別デイケア	19
8	10	就労ナイトケア	16
9	23	センター祭	51
10	10	特別デイケア	16
11	5	特別デイケア	5
12	23	クリスマス会	36
12	29	特別デイケア	22
1	7	特別デイケア	17
2	22	就労ナイトケア	10
2	25	特別デイケア	14
3	25	特別デイケア	18

g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況

月	日	行事名
5	22	第22回札幌市障がい者スポーツ大会出席
6	17	NPO法人オーク会総会出席
7	5	札幌家連主催会員研修会出席
3	7	札幌家連主催家族相談会出席

h 地域生活支援事業

・地域生活支援業務

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
家族訪問及び同行支援	6	5	11	4	11	9	9	9	13	9	10	12	108
関係機関とのケース会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係機関連携（電話・来所等）	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4	9

・個別相談関連業務件数

() は高次脳再掲 (単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
メンバー	131 (0)	97 (2)	90 (1)	78 (0)	78 (1)	52 (1)	60 (0)	55 (4)	55 (0)	52 (2)	41 (0)	75 (0)	864 (11)
OB	5 (0)	3 (0)	3 (1)	4 (0)	4 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (1)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	37 (2)
家族	3 (0)	3 (2)	1 (1)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (1)	6 (0)	4 (0)	2 (0)	5 (0)	35 (4)
一般	1 (2)	0 (2)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (3)	0 (0)	3 (0)	7 (0)	16 (9)

② OB会活動支援

a アフターケア（OB会）関連業務

月	日	曜日	内 容	場 所	参加人数
10	31	月	幹事会 今後の交流会について話し合いと 機関紙（こまん・たれ・ぶー）編集・発送	こころのリハビリ総合支援センター	2
			元気でやっとなる会（交流会） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		

③ 家族会活動支援

a 家族会関連業務

(単位:人)

毎月第1水曜日に会報誌「窓」の発送を行っている。

月	日	曜日	内 容	出席 人数
4	20	水	令和4年度リラの会総会	10名
5	18	水	話し合い 福祉制度の運営上の問題や日常の困った事など自由に	10名
6	15	水	話し合い 最近の様子や困り事など、実習生からの気持ちも	7名
7	20	水	話し合い 久しぶりに参加された方もあり、現況や将来の心配など	10名
8	17	水	話し合いとセンター祭打合せ 当センターや家族会の意義など実習生とも	7名
9	23	水	センター祭参加 カレーライスの料理配膳	14名
10	19	水	話し合い 実習生と共に当事者との付き合い方や作業所制度の現状問題点など	11名
11	16	水	話し合い 当事者への期待やグループホーム、親亡き後の不安など	7名
12	21	水	阿部所長との話し合い 精神科医療体制の現状の問題点や当事者への対応アドバイス	8名
1	18	水	話し合い 今年の抱負などを会員全員で話し合い	8名
2	15	水	話し合い 現看護師で看護専門科大学院生の参加も得て、親亡き後など将来の不安について	6名
3	15	水	1年を振り返って話し合い 今年を振り返りながら来年度の例会内容など	5名

ロ 障害者就労支援事業

ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業

(1) 多機能型事業所（就労移行支援事業・就労継続支援B型事業）の運営

① 就労継続支援B型事業所の運営

令和4年度も新型コロナへの対応をしながら事業を進めており、予定の変更を余儀なくされることもあったが、依頼された仕事を期限内に行うことが出来ている。

事業所の業務は、講義、実習生対応や映像制作、会議研修中継業務などは従前から継続しているが、書籍販売発送業務など新たな業務も加わっている。新たな業務でも繰り返し取り組むことによって、始めはぎこちなかったメンバーもその業務に精通することができ、その知識や経験を他のメンバーに伝えるなど自信をのぞかせる一面も見られ、出来ることに焦点を当てて実行していくことの大切さを実感できた。

依頼される仕事については、講義講演や中継撮影等の件数は着実に増えてきている。前年から連続して依頼された業務もあったことから、依頼者から期待されて仕事を頼まれて

いるという実感もメンバースタッフともに感じる場所である。また、依頼者からも業者さんと言われるほどの仕事に関するここプロのメンバーのプロ意識に触れ、社会の中で仕事をしているということを実感した。

そうした依頼される業務の他にも、自主企画の活動も展開できている。これまで実習生と継続して行ってきたDST（デジタルストーリーテリング）や、にんげん図書館（リビングライブラリー）の手法を活用した啓発活動）を高知県立大学等と協働して実施することができた。これらはこれまで当財団が重視してきたナラティブの実践であり、ナラティブベースのこれらの動きは、事業所活動の中核になりつつあり、今年度はラジオ放送のほかにYoutube Liveなども活用して情報発信の場を広げている。

a メンバーの概要 （令和5年3月31日現在）

○登録者 15 名

○性別： 男性 14 名、女性 3 名

○年齢： 平均 40.7 歳 （最低 23 歳、最高 57 歳）

○障害の状況：

障害名	人数
知的障害	1
精神障害	14
計	15

b 福祉手帳取得状況 （令和5年3月31日現在）

手帳等級	人数
療育手帳B	1
療育手帳Bー	2
精神保健福祉手帳2級	10
精神保健福祉手帳3級	2
計	15

c 通所者数

通所状況

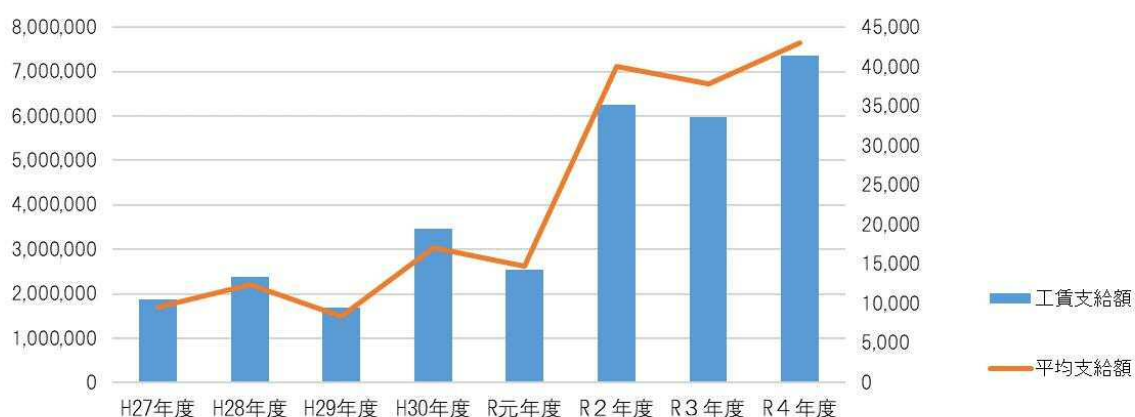
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	15	15	15	16	15	15	16	17	17	17	17	17	16
平均通所者数/日	11.7	11.5	11.2	12.0	11.3	10.0	12.0	11.4	11.9	12.0	12.2	11.9	11.6

d 工賃

○支給額

工賃支給額	7,372,600 円
平均工賃月額	42,783 円

○工賃支給実績の推移



e 活動内容

○行政との協働（委託事業など）の実績

市町村名	内容
北海道	介護認定審査会委員新規研修について動画制作を行った
札幌市北区	動画版「これならできる！朝ごはんレシピ集」の制作を行った

○他の NP0・市民活動団体との協働の実績

区分	件数	内容
活動報告	1 件	特色ある活動をしている事業所としてシンポジスト参加した
防災に関する研修等	5 件	災害時用配慮者避難に関する研修会(2 回)を企画運営したほか、防災に関するヒアリング調査(3 か所)を行った
商品販売	1 件	当事業所で制作した商品を北広島福祉ショップふゆーで通年販売した
デザイン制作	2 件	高次脳機能障害書籍のデザイン作成及び赤い羽根共同募金ピンバッチのデザイン制作を行った
ホームページ管理	1 件	ソーシャルワーク分野におけるリジリエンスに関する研究情報の WEB ページの管理業務を行った
書籍販売取扱業務	1 件	北海道大学病院リハビリテーション部発行の高次脳機能障害の書籍「今日はくもり、明日は晴れ」の注文対応及び発送業務を行う。取扱数は 468 冊であった。

○講義実績

区分	依頼先
精神保健福祉学科等	7 大学 2 専門学校
作業療法学科	2 大学 2 専門学校
看護学科	6 大学
その他	12 団体 3 学校

コロナ禍より対面での精神保健福祉に関する講義が制約や日程の変更にも対応しながら実施した。講義・グループワークの他、にんげん図書館やデジタルストーリーテリング（DST）などの語りを通して当事者を理解する方法も取り入れている。また、援助実習の依頼を希望する養成校には、学生に講義をする機会を設けてもらい、学生の事業所及び当事者理解が深まるようにしている。

○撮影・映像制作（依頼による）

区分	件数	内容
撮影・映像制作	16 件	障害者技能競技会のダイジェスト映像、学習教材映像、研修会記録映像等の制作
オンライン配信	18 件	研修会などのオンライン配信

コロナ対策のために研修教材の制作依頼に加えて、研修会のオンライン配信業務の依頼を受け、オンライン配信研修会の件数が増えている。また、民間企業からも映像制作の依頼を受けている。

○撮影・映像制作（自主企画による）

作品名	回数	摘要
Youtube でのライブ放送（定期配信）	21 回	第 2・4 火曜日午後配信

これまでの映像を配信する技術を活かしながら、事業所スタッフメンバーの情報発信の場を設けた。

○ラジオ放送

番組	回数	放送局／周波数	摘要
「ここプロありのままラジオ ～ファンキーで行こう！」 毎週木曜日 14:30～15:00 放送	51 回	エフエムアップル 76.5MHz	令和元年 5 月 より放送

○イベント企画

第 18 回市民メディア全国交流会 メディフェス仙台 セッション「誰でも社会～社会的少数派からの発信」パネリスト参加

メディアを活用しながら障害当事者の視点を語りを通して伝えるという日々行っている実践を参加者がイメージしやすくなるように報告している。

○実践報告・調査研究

第 29 回 日本精神障害者リハビリテーション学会にて報告
「こころカ・プロダクション開所 8 年を迎えて働き方を考えた
～リフレクティングでみえたことの報告～」

② 就労移行支援事業所の運営

利用者が一般企業へ就職し、令和 4 年 4 月 1 日より利用者が不在となったため、就労移行支援事業を休止していた。その後、担当職員の退職も重なり、令和 4 年度をもって当該事業所を廃止した。

○就職先種別（開設以降）

単位：人

業種	建築業事務	車両販売	調理・給食	行政機関	通信業事務	リサイクル業	クリーニング業	その他
人数	1	1	2	1	1	1	1	1

③就労定着支援事業の運営

令和 5 年 3 月 31 日現在、継続して就労している利用者 2 名が登録しており、必要に応じて引き続き支援していく。利用対象者となりうる就労者は他にもいるが現状ではメールや電話での支援で対応している。今後必要に応じて就労定着支援への登録を勧め、継続して働くことができるように支援していく。

（２）相談支援事業所の運営

① ココクルの運営

当法人では「精神障害者等の社会参加の促進」を目的としており、これまでデイケア通所者や家族等からの相談に応じているところである。障害者総合支援法に基づき、①就労支援事業やグループホーム等の障害福祉サービスの利用促進を図るため、②こころカ・プロダクションやその他障害福祉サービスの利用更新（概ね 1 年毎）のため、平成 28 年に相談支援事業所を開設し医療から福祉へ繋がる支援を行っている。令和 4 年度の実績としては下記のとおりとなっている。

○相談実績（件数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	2	0	10
電話・メール相談	12	11	16	18	20	17	15	18	16	15	18	20	196
面接相談	11	10	14	16	13	15	16	14	15	17	19	21	181
訪問・同行支援	9	7	10	12	13	11	12	15	17	16	18	22	162
関係機関との連絡	13	14	17	20	16	17	15	16	18	13	15	19	193

2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及

イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業

① 地域精神保健スタッフ等研修事業

a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

② 実習生、見学の受け入れ事業

a 施設見学等来所者状況

月	日	曜日	内 容	人数
8	5	金	札幌保健医療大学学生	1
8	9	火	家庭生活カウンセリングセンター受講者	18
8	9	火	北海道科学大学学生	2
9	21	水	移行支援事業所職員	2
11	17	木	社福）にれの会職員	2
3	28	火	札幌市みなみの杜高等支援学校教員	2
合 計				27

b 実習生受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ

内 容	人 数
福祉系学科（北海道医療大・札幌学院大・星礎道都大・北星学園大・北翔大・心療福祉）	11
作業療法学科（北海道大学・札幌医科大学・吉田学園）	3
看護学科（北海道医療大学・札幌医科大学・札幌医科大学院生）	37
医学部（北海道大学）	4
計	55
実習事前訪問対応	12回
実習指導者会議等出席（オンライン会議も含む）	3回

③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業

社会福祉団体など関係機関の要請に基づき、研修会への講師派遣や企画運営等への協力・技術支援を行っている。

④ 市民講座の開催

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

⑤ 障害者のスポーツ振興への協力

精神障害者のスポーツ振興の意味も含め、精神障害者団体への体育館貸出などへの協力を検討中である。

⑥精神障がい者地域移行研修事業の実施

（北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））

令和4年度については、研修準備としてオンラインにて打ち合わせを行い、各圏域が希望する研修について意向を確認し、テーマ別の研修設定、参加なのか参画なのかを選択できるように工夫した。また、オンデマンドによる研修も実施し、各圏域でコロナ感

染対策の状況に対応した研修を実施できるようにしている。

a 地域移行研修会打ち合わせ

第1回センター長会議と併せて開催し、今年度研修内容について道内各センター長との意見交換を行った。その他、各地の研修の実施時期に合わせて、それぞれ2回から3回オンラインにて打ち合わせを実施している。

b センター長会議

日 時	会 場（圏域）	内 容
5月12日 11：00～12：00	第1回センター長会議	道内各センター長と情報交換、意見交換（今年度研修計画、各圏域の近況報告など）
8月12日 11：00～12：00	第2回センター長会議	道内各センター長と情報交換、意見交換（全道ピア研修、オンデマンド研修のことなど確認）
11月24日 11：00～11：30	第3回センター長会議	道内各センター長と情報交換、意見交換（ピアカウンセリング研修、オンデマンド研修など）
2月21日 11：00～11：40	第4回センター長会議	道内各センター長と情報交換、意見交換（上川圏域地域移行研修、次年度の研修について）
8月23日 11：00～12：00	全道ピアサポーター研修 実行委員会	センター長からの提言により、全道ピアサポーター研修実行委員のオンライン打ち合わせへ振替

c ピアサポーター会議（zoom）

日 時	参加者	内 容
4月21日 13：30～14：30	41名	各センターのピアサポーター他己紹介、情報交換
5月19日 13：30～14：10	37名	テーマトーク「GW何をしていましたか？」
6月16日 13：30～14：30	37名	テーマトーク「精神科の薬の拒否感について」
7月21日 13：30～14：30	48名	情報交換と各センターからの近況報告
8月18日 13：30～14：30	希望センター視聴	当法人阿部理事長より講話
9月16日 13：30～14：30	48名	テーマトーク「専門用語を普段使いの言葉で言い換えるなら、ピアはどのように考える？」
11月24日 13：30～14：30	38名	当法人阿部理事長より話題提供
12月15日 13：30～14：30	39名	テーマトーク「今年一年を振り返って」
1月19日 13：30～14：30	49名	テーマトーク「小さなステップ（自分がこれまで経験してきたこと、ステップを登ってきたこと）」
2月16日 13：30～14：30	46名	当法人阿部理事長より講義「社会保障ってそもそも何なのか考えよう」
3月16日 13：30～14：30	48名	各センターから情報提供「コロナ禍の期間、茶話会をどんな形で行っていたか？」

d ピアカウンセリングセミナー（zoom）

日 時：2月2日、3日

参加者：12名 ※全課程修了者には、参加証を発行

スケジュール

1 日目 2/2(木)

10:00～ 11:00	<ピアカウンセリングオリエンテーション> ピアカウンセリングとは何でしょう？ ✧ ピアカウンセリングの基本原則 ✧ ピアカウンセリングのねらい 気分調べ ✧ 気分調べの説明（目的とルール） ✧ 気分調べでチェックイン 自己開示について 休憩
11:00～ 12:00	アイスブレイク「ご当地・自己自慢」
	昼休み
13:00～ 14:00	気分調べでチェックイン 演 習 1 「ストレングス～自分・環境～」 チェックアウトとしての感想 休憩

2 日目 2/3(金)

10:00～ 12:00	アナウンスメント 気分調べでチェックイン 「リカバリー・レジリエンスについて」 演習 3「人生の曲線」 チェックアウトとしての感想
	昼休み
13:00～ 15:00	最後の演習 「得意の一步」 研修の分かち合い 修了式

e 全道ピアサポーター研修

例年と同様に3日間研修を企画し、新型コロナウイルス感染に留意しながら、会場参加とオンライン参加を選択できるようハイブリッド開催で実施した。研修企画にあたっては、全道のピアサポーターから実行委員を募り、オンラインにて3回事前打ち合わせを行っている。今年度は、ピアサポーターが研修のプログラムの一部を企画から運営まで参画できるよう仕組みを整えている。実行委員会では、企画を提案するほか、企画の参加者に対して交渉も行うなど主体的な様子も見られていた。講師は北海道内だけではなく、道外から招くことができ、研修の幅が広がったと考えられる。

オンラインを活用した3日間研修の実施については、資料を動画として事前に視聴してもらいなどして、ピアサポーターの疲労などを考慮しつつ、交流の時間を増やせるように企画している。

オンラインでの一方的な講義にせず、演習やグループに分かれての意見交換ができるように工夫している。

日 時：10月5日（水）～7日（金）

会 場：北海道建設会館9階中会議室 及び オンライン

参加者：80名（参集6名、オンライン74名）※全課程修了者には、参加証を発行

プログラム（案）	10/5（水）	10/6（木）	10/7（金）
10：00～12：00		後志圏域制作 DVD 上映 & 制作秘話	東胆振 & 富良野圏域 「あのピアに聴いてみたい！」 閉会のあいさつ
13：00～16：00	開会のあいさつ 新しいピア紹介 各圏域代表からピア紹介	大阪 株式会社 inC との 交流会	

f 地域移行研修（エリアをまたぐ研修としても企画）

日 時	会 場	参加者	摘要
9 月 27 日（火） 13：30～15：30	倶知安町役場 2 階会議室及びオンライン	後志圏域 54 名 （オンライン参加者含む）	打ち合わせ 3 回 （6/28, 7/4, 7/22）
1 月 24 日（火） 13：30～15：30	オンライン開催	宗谷圏域 5 市町村 17 名	打ち合わせ等 4 回 （7/7, 11/30, 1/17, 3/14）
3 月 7 日（火） 10：30～16：30	旭川市障害者福祉センターおびた 及びオンライン	上川中部圏域 ※札幌、函館からの参加者含む 55 名（オンライン参加者含む）	打ち合わせ 1 回（12/27） ※全課程の参加者へ修了証明書を発行

g オンデマンド研修

新型コロナウイルス感染防止にも配慮し、それぞれの圏域の状況に合わせて活用できるようにオンデマンド研修方式を導入した。

○「長期入院者の退院のための看護」

中島裕子氏（札幌鈴木病院看護師長）

※好評のため、前年度に引き続き研修開催。

○「地域共生社会へ向けて～いろいろな視点から見る“地域移行”とは～」

大塚淳子氏（帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科教授）

（2022 年 3 月 3 日地域移行研修会映像）

○「地域移行支援の実践について～各支援者の立場から～」

長濱章雄氏（社会福祉法人新生会 知的障がい児施設 希望学園支援課長・サービス管理責任者）

小木曾美智子氏（旭川刑務所 処遇部企画部門（分類））、

佐藤豊彦氏（社会福祉法人道北センター福祉会道北地域生活支援センター センター長）

コーディネーター 紺野あゆみ氏（旭川市障害者総合相談支援センターあそとセンター長）

（2022 年 3 月 3 日地域移行研修会映像）

- 「名寄市立総合病院におけるピアスタッフの役割～採用に至る経緯と期待すること」
野口剛志氏（名寄市立総合病院こころのリハビリテーションセンター 診療部長）、
吉本尚美氏（同 アウトリーチ係長）、中川英樹氏（同 ピアスタッフ）
- 「株式会社 inC の活動&精神障害者の地域支援事業の歴史」～大阪ではどのように始まったのかと現状や課題について～
赤澤慶信氏（株式会社 inC）、田淵誠氏（同 アウトリーチ係長）
※全道ピアサポーター研修 事前視聴にも利用

□ 高次脳機能障害者支援事業等

① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】

1. 支援プログラムの実施状況及び相談件数

○リハビリテーションプログラム実施状況（※通所登録者数は各月末時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通所登録者（人）	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	
実施回数（回）	21	20	22	21	22	21	21	21	16	20	20	23	248
延べ人数（人）	25	30	35	29	27	27	31	31	32	26	32	39	364
1日平均通所者（人）	1.2	1.5	1.6	1.4	1.2	1.3	1.5	1.5	2	1.3	1.6	1.7	

- ・新規通所者：40代女性 交通事故による高次脳機能障害

〈登録者の動向〉

コロナウイルスの流行により、他の持病があるため通所を中断する方、高齢のため外出は自粛するという方が依然としている。通所日数は、他機関との併用、体力や精神的疲労の度合いなど個々の状況に合わせて決定している。その中で複数あるプログラムから自分に適したプログラムを選択し参加する（必要に応じスタッフがプログラム選択の助言を行う）。外来とデイケアを併用している方もいる。家族調整や生活環境の調整のため他機関と連絡を取りケース会議を行いながら支援するケースもある。

○相談支援件数と内容

	計
電話（家族・本人）	38
電話（関係機関）	17
来所相談	23
訪問・同行	25
文書・メール	85
見学（家族・本人）	0
見学（関係機関）	0
計	188

【相談内容】

- ・本人～対人関係や生活上の悩みや不安、就労先での工夫、日常生活における計画や手順の工夫など
- ・家族～関わりの苦労、工夫を聴くほか、本人と他の家族との意思疎通や目標確認、年金等の手続きの相談
- ・医療機関（脳神経外科・リハ科・精神科病院、クリニック）～退院後の支援、リハビリテーションについて
- ・行政機関、就労支援・介護支援・相談支援事業所～受け入れ先について、対応困難なケースについて

○同行支援・家庭訪問と内容

- ・家庭での生活状況の確認や家事等の本人の自立に向けた助言、指導を行った。

○精神科医による診察

- ・外来診察 【66件】

近年はデイケア利用者だけではなく、定期的な診察や生活支援のために利用する方も増えている。手帳の申請や、裁判に係る意見書を作成。

2. 支援計画の作成と評価

○新規支援計画の作成

医師の診断とコメディカルによる認知機能、ADL 評価を行い、今後必要とされる地域資源やリハビリプログラムの検討を行った。

○本人・家族の目標設定と振り返り

	実 施 内 容
4 月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
4 月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）
10 月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
10～11 月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）

3. 支援調整・検討会議の開催

○施設内支援検討会議

	回数	実 施 内 容
5 月	1	対応の検討、支援計画の評価検討
6 月	2	対応の検討、職員間のケース共有会議
9 月	1	対応の検討
11 月	2	対応の検討、支援計画の評価検討
12 月	1	ケース検討

○他機関との支援調整会議

実施日	参加機関	内 容
4 月 15 日	本人、父、GH、病院コーディネーター、当職員	情報共有とケース会議
6 月 14 日	教育委員会、当職員	子のいじめ問題に関する会議の事前打ち合わせ
6 月 27 日	教育委員会 2 名、学校 3 名、当職員 2 名	子のいじめ問題に関する情報共有
7 月 1 日	本人、教育委員会 4 名、学校 4 名、当職員 2 名	子のいじめ問題に関するケース会議
8 月 9 日	本人、母、調査委員 2 名、教育委員会 2 名、当職員	子のいじめ問題の調査委員会
9 月 8 日	父、GH、訪問リハ、病院コーディネーター、当職員 2 名	情報共有とケース会議

○その他他機関との連携

実施日	参加機関	内 容
7 月 15 日	本人、B 型事業所、当職員 2 名	事業所見学同行
12 月 14 日	本人、不動産仲介業者、当職員	転居にむけての物件内覧、相談
3 月 30 日	就労先職員、当職員	本人・家族への対応について協議

4. 関係機関相互の情報交換及び参加研修会等

実施日	実 施 内 容	主 催
6月29日	令和4年度 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
6月29日	令和4年度 第1回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター
6月15日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会①	講習会実行委員会
7月6日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会②	講習会実行委員会
7月27日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会③	講習会実行委員会
9月14日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会④	講習会実行委員会
10月16日	北海道 高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	講習会実行委員会
10月4日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑤	講習会実行委員会
11月30日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会⑥	講習会実行委員会
2月17日	令和4年度 第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
2月17日	令和4年度 第2回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター

5. 支援ネットワークの構築

ホームページやパンフレット、研修会等で当施設を知った関係機関からの支援法や情報を求める連絡を受け、これまで確立したネットワークをもとに情報の伝達を行った。また、ケースを通じて就労継続事業所や保健師、介護支援専門員、訪問リハスタッフなどで支援目標の確認を共同で行うことや研修会の企画を共同で行うことで、お互いに相談でき対応の調整がしやすくなった。

6. 講演・講師派遣

○ 高次脳機能障害者リハビリテーション講習会について

北海道高次脳機能障害者リハビリテーション講習会の実行委員会事務局として運営。

日時：10月16日（日）13:00～15:30（オンライン開催、パブリックビューイング会場）

テーマ：病院では見えない生活の困りごと～コミュニケーションで困っていませんか？～

第1部 講演：生活に戻ってから明らかになるコミュニケーション問題と対応～本人も周囲も悩む会話の溝を埋めるには？～

講師：NPO 法人 Re ジョブ大阪 言語聴覚士 西村 紀子 氏

第2部 実践報告：書籍「今日はいくもり。明日は晴れ」～7人の物語ができるまで～

講師：北海道大学病院 ソーシャルワーカー 玉川 侑那 氏

第3部 Q&A コーナー

参加者：オンライン申込件数 288 名

パブリックビューイング会場 52 名（当事者、家族、医療・福祉関係者 等）

○普及啓発

北大リハビリテーション部が作成した書籍「今日はいくもり。明日は晴れ」の販売代行

ハ ひきこもり対策推進事業

① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営

② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営

a 相談支援実施状況

1. 相談支援概要

○相談件数（北海道）（単位：件）

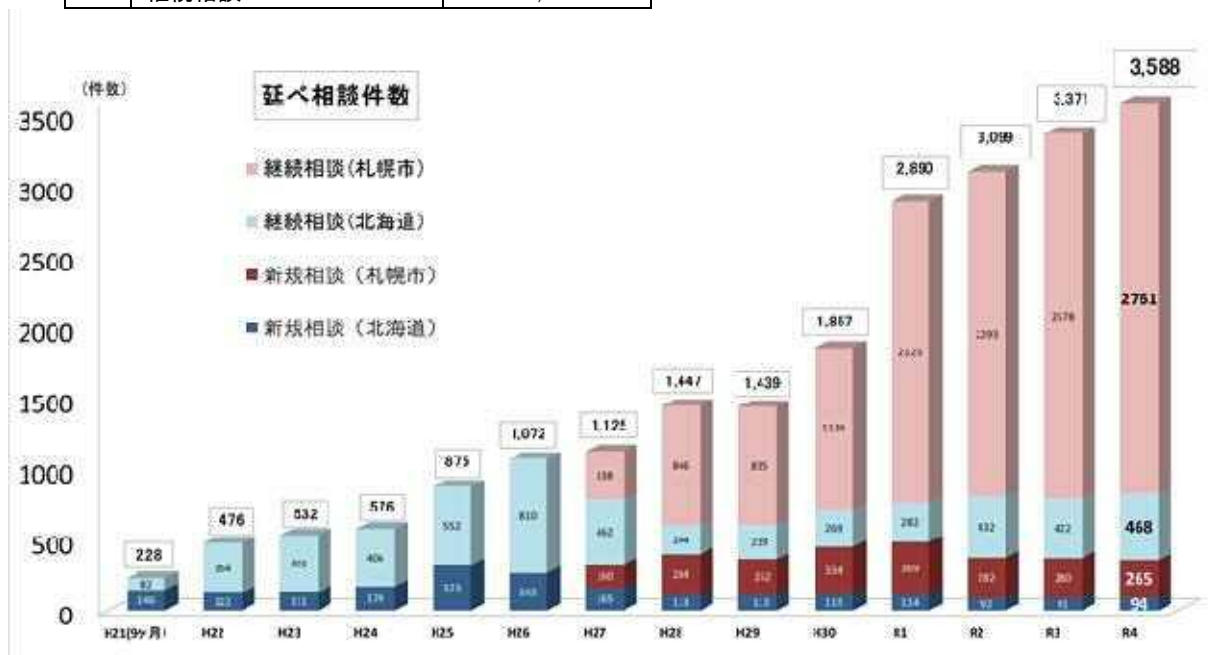
相談件数計	562
新規相談	94
継続相談	468

○相談件数（札幌市）

相談件数計	3,026
新規相談	265
継続相談	2,761

○相談件数（合計）

相談件数計	3,588
新規相談	359
継続相談	3,229



2. 相談方法別内訳

○相談方法内訳（北海道）

	新規	継続	計	構成比
電話	62	85	147	25.3%
来所	2	89	91	15.7%
メール	26	283	309	53.2%
アウトリーチ	3	10	13	2.2%
出張相談等	1	1	2	0.3%
小計	94	468	562	
連携	—	19	19	3.3%
計	94	487	581	100%

※「電話」にオンライン相談 4 件を含む

○相談方法内訳（札幌市）

	新規	継続	計	構成比
電話	171	294	465	14.4%
来所	22	1027	1049	32.5%
メール	44	1033	1077	33.3%
アウトリーチ	5	345	350	10.8%
出張相談等	23	62	85	2.6%
小計	265	2761	3026	
連携	-	204	204	6.3%
計	265	2965	3230	100%

※「電話」にオンライン相談 4 件を含む

○相談方法内訳（合計）

	新規	継続	計	構成比
電話	233	379	612	16.1%
来所	24	1116	1140	29.9%
メール	70	1316	1386	36.4%
アウトリーチ	8	355	363	9.5%
出張相談等	24	63	87	2.3%
小計	359	3229	3588	
連携	0	223	223	5.9%
計	718	3452	3811	100%

※「電話」にオンライン相談 8 件を含む

3. ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

○精神科デイケアへの通所

	北海道	札幌市	総計
令和 4 年度	1 名	8 名	9 名
平成 27 年度～令和 3 年度	-	3 2 名	7 0 名
平成 21 年度～令和 3 年度	3 8 名	-	
計	3 9 名	4 0 名	7 9 名

○ひきこもり外来状況

	北海道		札幌市		総計
	令和 4 年度	平成 21 年度～ 令和 3 年度	令和 4 年度	平成 27 年度～ 令和 3 年度	
新規ケース	1 名	6 7 名	2 3 名	1 1 6 名	2 0 7 名
延べ回数	5 2 回	3 9 5 回	7 3 9 回	1, 7 5 0 回	2, 9 3 6 回

b 支援ネットワークの構築等

1. ひきこもり支援者連絡会議実施状況（北海道）

「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえオンライン研修も含め実施した。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

希望確認項目、①関わっている機関の職員が集まってのケース検討会

②個別相談（当事者、家族） ③ひきこもりに関する研修会 ④その他

月	日	実 施 内 容	備 考
9	29	京極町（倶知安保健所） 研修会	講師
10	6	厚真町（苫小牧保健所） 研修会	講師（オンライン）
10	13	名寄市（名寄保健所） 研修会・ケース検討	講師
10	17	枝幸町（稚内保健所） 研修会・ケース検討	講師
10	18	雄武町（紋別保健所） 研修会（当事者向け・一般向け）	講師
10	21	帯広市（帯広保健所） 研修会	講師
11	1	釧路町（釧路保健所） 研修会・個別相談	講師、個別相談
11	4	壮瞥町（室蘭保健所） 個別相談	オンライン
11	17	南幌町（岩見沢保健所） 個別相談・ケース検討	個別相談
11	22	恵庭市（千歳保健所） 研修会	講師
12	15	北広島市（千歳保健所） ケース検討	オンライン
1	31	旭川市（旭川市保健所・上川保健所） 研修会	講師

2 ひきこもり出張無料相談会・よりどころ実施状況（札幌市）

○ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は各月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）

13：30～16：00に実施した（1回あたり最大4件まで予約可）。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載（北海道新聞「さっぽろ10区」に掲載し周知宣伝2022年5月～2023年3月）、広報さっぽろ（誌面、地デジ、アプリ）、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。各回、申込状況に合わせて相談員を調整した。

○居場所「よりどころ」（親の会・当事者会）への専門職の派遣

NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している居場所「よりどころ」に「親の会」へ相談員を派遣した。また、「親の会」では月1回、「学習会」として、「親の接し方や声掛け、病気や障害について等」、当センターから参加者に向けて伝えた。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケース、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

3 ネットワーク構築状況

○講師派遣状況等

月	日	実 施 内 容	備 考
10	29	精神衛生学会（神戸市） ～ひきこもり支援から見えてくるもの～人を無力にするものは何か～	1名派遣
11	12	令和4年度 富良野地方精神保健協会 講演会	1名派遣
12	4	ひきこもり VOICE STATION 全国キャラバン in HOKKAIDO（札幌市）	2名派遣
12	20	石狩市子ども・若者支援地域協議会代表者会議	1名派遣

c 普及啓発、事業概要説明

問い合わせ、相談先の掲載、インタビュー（報道機関や大学の研究等）やアンケート協力、リーフレット送付インターネットによる発信等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

「当センターを知ったきっかけ」として、当年度の新規相談 94 件のうち、「ホームページ」が 55 件（約 59%）と半数以上となっており、有用な周知方法であるとわかる。他内訳としては、「不明」が 18 件（約 19%）、「市町村窓口」が 9 件（約 10%）、残りは「当事者会・家族会」「支援機関」「家族・知人」「新聞」などがある。

③研修会

○ひきこもり支援機関関係職員等研修会

月	日	実 施 内 容	備 考
2	20 ～ 27	令和4年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「ひきこもりって精神医療が必要？」～そのはざままで揺れ動く事例～ インターネット配信期間：2/20(月)～2/27(月) 参加者居住地内訳：北海道 233 名(札幌市以外)、札幌市 25 名、道外 5 名	※講師：コーディネーター4 名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1 週間（24 時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

○ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実 施 内 容	備 考
3	20 ～ 27	令和4年度 ひきこもりサポーター養成研修 「ひきこもりサポーターの活躍の場」～居場所実践を聞きながら～ ＜各地域からのシンポジスト＞ 札幌市から「居場所よりどころ」、幕別町から「ひろばHIDAMARINO」 石狩市から「相談室まるしえ」、岡山県総社市から「ひきこもり支援センター ワンタッチ」 参加者居住地内訳：北海道 73 名(札幌市以外)、札幌市 39 名、道外 8 名、不明 1 名	ZOOM を利用したオンライン収録かつ動画配信研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1 週間（24 時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

※新型コロナウイルスの影響から、協議会は中止とした。

3 会 計 部 門

貸 借 対 照 表

令和 5年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	47,209,561	33,052,151	14,157,410
普通預金	47,209,561	33,052,151	14,157,410
未収金	16,155,147	15,307,462	847,685
前払金	70,000	70,000	
流動資産合計	63,434,708	48,429,613	15,005,095
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	49,982,970	49,982,970	
諸貯金	17,030	17,030	
基本財産合計	50,000,000	50,000,000	
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	39,590,577	56,089,604	△16,499,027
減価償却引当資産	42,372,853	41,417,387	955,466
土地	347,016,000	347,016,000	
建物	497,434,011	497,434,011	
什器備品	24,723,809	24,030,809	693,000
減価償却累計額 △	433,366,384	423,767,769	9,598,615
特定資産合計	517,770,866	542,220,042	△24,449,176
(3) その他固定資産			
構築物	7,414,959	7,414,959	
車両運搬具	299,000	299,000	
減価償却累計額 △	7,433,600	7,218,429	215,171
電話加入権	352,024	352,024	
預託金	24,000	24,000	
その他固定資産合計	656,383	871,554	△215,171
固定資産合計	568,427,249	593,091,596	△24,664,347
資産の部合計	631,861,957	641,521,209	△9,659,252
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	18,178,594	3,788,280	14,390,314
未払消費税等	887,900	744,100	143,800
預り金	709,129	721,760	△12,631
流動負債合計	19,775,623	5,254,140	14,521,483
2 固定負債			
長期借入金	25,000,000	25,000,000	
退職給付引当金	39,590,577	56,089,604	△16,499,027
固定負債合計	64,590,577	81,089,604	△16,499,027
負債の部合計	84,366,200	86,343,744	△1,977,544
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
地方公共団体補助金	104,969,165	113,606,339	△8,637,174
寄付金	30,000,000	30,000,000	
受贈土地	347,016,000	347,016,000	
指定正味財産合計	481,985,165	490,622,339	△8,637,174
(うち基本財産への充当額)	(50,000,000)	(50,000,000)	()
(うち特定資産への充当額)	(431,985,165)	(440,622,338)	(△8,637,173)
2 一般正味財産	65,510,592	64,555,126	955,466
(うち特定資産への充当額)	(46,195,124)	(45,508,100)	(687,024)
正味財産の部合計	547,495,757	555,177,465	△7,681,708

貸 借 対 照 表

令和 5年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
負債及び正味財産合計	631,861,957	641,521,209	△9,659,252

正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	239,276	239,276	
基本財産受取利息	239,276	239,276	
特定資産運用益	1,011	655	356
特定資産受取利息	1,011	655	356
事業収益	98,503,349	99,466,653	△963,304
診療収益	64,229,124	63,303,380	925,744
就労支援事業収益	7,504,630	4,972,081	2,532,549
訓練等給付費収益	25,094,090	29,657,400	△4,563,310
就労支援自己負担金収益	426,200	389,600	36,600
計画相談支援給付費収益	642,906	604,227	38,679
その他の事業収益	606,399	539,965	66,434
受取補助金等	36,706,742	36,711,946	△5,204
受取補助金等振替額	8,637,174	8,642,378	△5,204
北海道委託金	13,473,668	13,473,668	
札幌市委託金	14,595,900	14,595,900	
受取寄付金	457,800	1,338,900	△881,100
受取寄付金	457,800	1,338,900	△881,100
雑収益	584,281	324,378	259,903
受取利息	1,062	844	218
雑収益	583,219	323,534	259,685
経常収益計	136,492,459	138,081,808	△1,589,349
(2) 経常費用			
事業費	120,391,727	120,743,146	△351,419
給料手当	55,824,288	60,786,940	△4,962,652
臨時雇賃金	10,271,627	9,746,802	524,825
退職給付費用	2,995,374	3,595,127	△599,753
福利厚生費	9,656,856	10,524,368	△867,512
旅費交通費	1,673,141	275,030	1,398,111
通信運搬費	707,760	550,274	157,486
減価償却費	9,026,156	9,105,259	△79,103
消耗什器備品費	724,880		724,880
消耗品費	2,771,208	2,051,741	719,467
修繕費	572,853	438,295	134,558
印刷製本費	13,310	130,680	△117,370
燃料費	1,489,205	1,461,774	27,431
光熱水料費	2,609,767	2,302,237	307,530
賃借料	1,602,032	1,307,090	294,942
保険料	519,877	548,347	△28,470
諸謝金	2,100,000	2,168,611	△68,611
租税公課	1,749,005	1,609,433	139,572
支払負担金	328,794	434,414	△105,620
委託費	5,967,876	5,631,944	335,932
医薬材料費	6,625	1,861	4,764
デイケア材料費	1,002,802	1,025,086	△22,284
利用者工賃	7,372,600	5,982,958	1,389,642
支払手数料	1,368,191	1,027,375	340,816
支払利息	37,500	37,500	
管理費	15,145,266	15,398,882	△253,616

正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
役員報酬	92,500	7,400	85,100
給料手当	9,995,590	10,563,502	△567,912
臨時雇賃金	23,305	22,320	985
退職給付費用	296,246	355,562	△59,316
福利厚生費	1,828,271	1,867,076	△38,805
旅費交通費	5,180	1,800	3,380
通信運搬費	70,165	64,723	5,442
減価償却費	787,630	700,421	87,209
消耗品費	180,149	119,365	60,784
修繕費	41,137	31,475	9,662
燃料費	102,354	101,099	1,255
光熱水料費	165,623	144,251	21,372
賃借料	57,147	57,147	
保険料	51,443	55,023	△3,580
租税公課	24,895	18,767	6,128
支払負担金	50,106	60,186	△10,080
雑費		9,101	△9,101
支払手数料	248,422	118,064	130,358
委託費	1,125,103	1,101,600	23,503
経常費用計	135,536,993	136,142,028	△605,035
評価損益等調整前当期経常増減額	955,466	1,939,780	△984,314
評価損益等計			
当期経常増減額	955,466	1,939,780	△984,314
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益		5,999	△5,999
車両運搬具売却益		5,999	△5,999
経常外収益計		5,999	△5,999
(2) 経常外費用			
経常外費用計			
当期経常外増減額		5,999	△5,999
税引前当期一般正味財産増減額	955,466	1,945,779	△990,313
当期一般正味財産増減額	955,466	1,945,779	△990,313
一般正味財産期首残高	64,555,126	62,609,347	1,945,779
一般正味財産期末残高	65,510,592	64,555,126	955,466
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	8,637,174	8,642,378	△5,204
一般正味財産への振替額	8,637,174	8,642,378	△5,204
当期指定正味財産増減額	△8,637,174	△8,642,378	5,204
指定正味財産期首残高	490,622,339	499,264,717	△8,642,378
指定正味財産期末残高	481,985,165	490,622,339	△8,637,174
III 正味財産期末残高	547,495,757	555,177,465	△7,681,708

正味財産増減計算書内訳表
令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益		239,276		239,276
基本財産受取利息		239,276		239,276
特定資産運用益	920	91		1,011
特定資産受取利息	920	91		1,011
事業収益	85,454,497	14,378,072	△1,329,220	98,503,349
診療収益	49,851,052	14,378,072		64,229,124
就労支援事業収益	8,833,850		△1,329,220	7,504,630
訓練等給付費収益	25,094,090			25,094,090
就労支援自己負担金収益	426,200			426,200
計画相談支援給付費収益	642,906			642,906
その他の事業収益	606,399			606,399
受取補助金等	36,128,052	578,690		36,706,742
受取補助金等振替額	8,058,484	578,690		8,637,174
北海道委託金	13,473,668			13,473,668
札幌市委託金	14,595,900			14,595,900
受取寄付金	457,800			457,800
受取寄付金	457,800			457,800
雑収益	571,127	13,154		584,281
受取利息	1,062			1,062
雑収益	570,065	13,154		583,219
経常収益計	122,612,396	15,209,283	△1,329,220	136,492,459
(2) 経常費用				
事業費	121,720,947		△1,329,220	120,391,727
給料手当	55,824,288			55,824,288
臨時雇賃金	10,271,627			10,271,627
退職給付費用	2,995,374			2,995,374
福利厚生費	9,656,856			9,656,856
旅費交通費	1,673,141			1,673,141
通信運搬費	707,760			707,760
減価償却費	9,026,156			9,026,156
消耗什器備品費	724,880			724,880
消耗品費	2,771,208			2,771,208
修繕費	572,853			572,853
印刷製本費	13,310			13,310
燃料費	1,489,205			1,489,205
光熱水料費	2,609,767			2,609,767
賃借料	1,602,032			1,602,032
保険料	519,877			519,877
諸謝金	2,100,000			2,100,000
租税公課	1,749,005			1,749,005
支払負担金	328,794			328,794
委託費	5,967,876			5,967,876
医薬材料費	6,625			6,625
デイケア材料費	1,002,802			1,002,802
利用者工賃	7,372,600			7,372,600
支払手数料	2,697,411		△1,329,220	1,368,191
支払利息	37,500			37,500
管理費		15,145,266		15,145,266
役員報酬		92,500		92,500
給料手当		9,995,590		9,995,590
臨時雇賃金		23,305		23,305
退職給付費用		296,246		296,246
福利厚生費		1,828,271		1,828,271
旅費交通費		5,180		5,180
通信運搬費		70,165		70,165
減価償却費		787,630		787,630
消耗品費		180,149		180,149
修繕費		41,137		41,137

正味財産増減計算書内訳表

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
燃料費		102,354		102,354
光熱水料費		165,623		165,623
賃借料		57,147		57,147
保険料		51,443		51,443
租税公課		24,895		24,895
支払負担金		50,106		50,106
支払手数料		248,422		248,422
委託費		1,125,103		1,125,103
経常費用計	121,720,947	15,145,266	△1,329,220	135,536,993
評価損益等調整前当期経常増減額	891,449	64,017		955,466
評価損益等計				
当期経常増減額	891,449	64,017		955,466
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計				
(2) 経常外費用				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替前当期一般正味財産増減額	891,449	64,017		955,466
税引前当期一般正味財産増減額	891,449	64,017		955,466
当期一般正味財産増減額	891,449	64,017		955,466
一般正味財産期首残高	57,425,838	7,129,288		64,555,126
一般正味財産期末残高	58,317,287	7,193,305		65,510,592
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	8,058,484	578,690		8,637,174
一般正味財産への振替額	8,058,484	578,690		8,637,174
当期指定正味財産増減額	△8,058,484	△578,690		△8,637,174
指定正味財産期首残高	484,350,706	6,271,633		490,622,339
指定正味財産期末残高	476,292,222	5,692,943		481,985,165
III 正味財産期末残高	534,609,509	12,886,248		547,495,757

財 産 目 録

令和 5年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金 普通預金 未収金 前払金	北洋銀行白石中央支店他5口座 診療報酬、診療報酬自己負担分他 前払家賃	運転資金として	47,209,561 47,209,561 16,155,147 70,000
流動資産合計				63,434,708
(固定資産)	基本財産			
特定資産	投資有価証券	札幌市平成27年度第9回公募公債他	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	49,982,970
	諸貯金	北洋銀行白石中央支店	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	17,030
	退職給付引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、36,027,425円は公益目的事業会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。	39,590,577
	減価償却引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、3,563,152円は法人会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている預金。	42,372,853
その他固定資産	土地	4,819.66㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、2,838,983円は法人会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている預金。	347,016,000
	建物	1,793.7㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、464,243,115円は公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	497,434,011
	什器備品	応接セット他65点	右記金額のうち、33,190,896円は管理活動財産であり、法人会計の施設に使用している。	24,723,809
	減価償却累計額 △		右記金額のうち、24,613,264円は公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	433,366,384
	構築物	館名板他3点	公益目的保有財産であり、公益目的事業の設備として使用している。	7,414,959
	車両運搬具	トヨタウイッシュ1台	管理活動財産であり、法人会計において使用している。	299,000
	減価償却累計額 △		公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	7,433,600
	電話加入権	日本電信電話㈱	公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	352,024
その他固定資産	預託金	事業所敷金	公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用し事業所敷金である。	24,000
固定資産合計				568,427,249
資産合計				631,861,957
(流動負債)	未払金 未払消費税等 預り金	職員及び商業者等に対する未払額 令和4年度消費税 社会保険料職員自己負担分他	公益目的事業会計及び法人会計での給与手当及び経常経費の未払分である。	18,178,594 887,900 709,129
流動負債合計				19,775,623
(固定負債)	長期借入金 退職給付引当金	独立行政法人福祉医療機構 職員に対するもの	職員に対する退職金の支払いに備えたものである。	25,000,000 39,590,577
固定負債合計				64,590,577
負債合計				84,366,200
正味財産				547,495,757

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

個別原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法

(3) 引当金の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式

2. 会計方針の変更

該当なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	49,982,970			49,982,970
諸貯金	17,030			17,030
小 計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産				
土地	347,016,000			347,016,000
建物	97,004,956		9,289,388	87,715,568
什器備品	692,095	693,000	309,227	1,075,868
退職給付引当資産	56,089,604	3,291,620	19,790,647	39,590,577
減価償却引当資産	41,417,387	955,466		42,372,853
小 計	542,220,042	4,940,086	29,389,262	517,770,866
合 計	592,220,042	4,940,086	29,389,262	567,770,866

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当)	(うち一般正味 財産からの充当)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
投資有価証券	49,982,970	49,982,970		
諸貯金	17,030	17,030		
小 計	50,000,000	50,000,000	0	0
特定資産				
土地	347,016,000	347,016,000		
建物	87,715,568	84,969,142	2,746,426	
什器備品	1,075,868	23	1,075,845	
退職給付引当資産	39,590,577			39,590,577
減価償却引当資産	42,372,853		42,372,853	
小 計	517,770,866	431,985,165	46,195,124	39,590,577
合 計	567,770,866	481,985,165	46,195,124	39,590,577

5. 担保に供している資産

該当なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高（貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合）
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	16,155,147		16,155,147
合 計	16,155,147	0	16,155,147

7. 保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）等の偶発債務
該当なし

8. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
満期保有目的の債権並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
北海道平成25年度第15回公募公債	30,022,955	30,180,000	157,045
札幌市平成27年度第9回公募公債	19,960,015	20,078,000	117,985
合 計	49,982,970	50,258,000	275,030

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
委託金						
地域移行支援事業	北海道		7,229,668	7,229,668	0	一般正味財産
高次脳機能事業	〃		1,597,000	1,597,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	〃		4,647,000	4,647,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	札幌市		14,595,900	14,595,900	0	一般正味財産
補助金					0	
開設時施設整備	北海道	113,606,339		8,637,174	104,969,165	指定正味財産
合 計		113,606,339	28,069,568	36,706,742	104,969,165	

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	8,637,174
合 計	8,637,174

11. 関連当事者との取引の内容
該当なし

12. 重要な後発事象
該当なし

13. その他
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	投資有価証券	49,982,970			49,982,970
	諸貯金	17,030			17,030
	基本財産計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産	土地	347,016,000			347,016,000
	建物	97,004,956		9,289,388	87,715,568
	什器備品	692,095	693,000	309,227	1,075,868
	退職給付引当資産	56,089,604	3,291,620	19,790,647	39,590,577
	減価償却引当資産	41,417,387	955,466		42,372,853
	特定資産計	542,220,042	4,940,086	29,389,262	517,770,866

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	56,089,604	3,291,620	19,790,647		39,590,577

収 支 計 算 書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1) 基本財産運用収入	240,000	239,276	△724
基本財産利息収入	240,000	239,276	△724
(2) 特定資産運用収入	1,000	1,011	11
特定資産利息収入	1,000	1,011	11
(5) 事業収入	105,132,000	98,503,349	△6,628,651
診療収入	65,772,000	64,229,124	△1,542,876
研修事業収入	256,000		△256,000
就労支援事業収入	8,800,000	7,504,630	△1,295,370
訓練等給付費収入	28,874,000	25,094,090	△3,779,910
就労支援自己負担金収入	432,000	426,200	△5,800
計画相談支援給付費収入	598,000	642,906	44,906
その他の事業収入	400,000	606,399	206,399
(6) 補助金等収入	28,069,000	28,069,568	568
北海道委託金収入	13,473,000	13,473,668	668
札幌市委託金収入	14,596,000	14,595,900	△100
(8) 寄付金収入	300,000	457,800	157,800
寄付金収入	300,000	457,800	157,800
(9) 雑収入	306,000	584,281	278,281
受取利息収入	1,000	1,062	62
雑収入	305,000	583,219	278,219
事業活動収入計	134,048,000	127,855,285	△6,192,715
2. 事業活動支出			
(1) 事業費支出	130,561,000	126,379,685	4,181,315
給料手当支出	57,270,000	55,824,288	1,445,712
臨時雇賃金支出	10,276,000	10,271,627	4,373
退職給付支出	18,010,000	18,009,488	512
福利厚生費支出	10,084,000	9,656,856	427,144
旅費交通費支出	1,716,000	1,673,141	42,859
通信運搬費支出	708,000	707,760	240
消耗什器備品費支出	725,000	724,880	120
消耗品費支出	2,772,000	2,771,208	792
修繕費支出	573,000	572,853	147
印刷製本費支出	325,000	13,310	311,690
燃料費支出	1,490,000	1,489,205	795
光熱水料費支出	2,610,000	2,609,767	233
賃借料支出	1,661,000	1,602,032	58,968
保険料支出	520,000	519,877	123
諸謝金支出	2,369,000	2,100,000	269,000
租税公課支出	1,783,000	1,749,005	33,995
負担金支出	370,000	328,794	41,206
委託費支出	6,117,000	5,967,876	149,124
雑支出	50,000		50,000
医薬材料費支出	20,000	6,625	13,375
デイケア材料費支出	1,003,000	1,002,802	198
利用者工賃支出	7,373,000	7,372,600	400
手数料支出	2,698,000	1,368,191	1,329,809
支払利息	38,000	37,500	500
(2) 管理費支出	17,767,000	15,842,549	1,924,451
役員報酬支出	141,000	92,500	48,500

収 支 計 算 書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
給料手当支出	10,484,000	9,995,590	488,410
臨時雇賃金	78,000	23,305	54,695
退職給付支出	1,782,000	1,781,159	841
福利厚生費支出	2,459,000	1,828,271	630,729
会議費支出	40,000		40,000
旅費交通費支出	35,000	5,180	29,820
通信運搬費支出	156,000	70,165	85,835
消耗品費支出	512,000	180,149	331,851
修繕費支出	42,000	41,137	863
燃料費支出	109,000	102,354	6,646
光熱水料費支出	166,000	165,623	377
賃借料支出	104,000	57,147	46,853
火災保険料支出	57,000	51,443	5,557
租税公課支出	25,000	24,895	105
負担金支出	98,000	50,106	47,894
支払利息支出	38,000		38,000
手数料支出	288,000	248,422	39,578
委託費支出	1,153,000	1,125,103	27,897
事業活動支出計	148,328,000	142,222,234	6,105,766
事業活動収支差額	△14,280,000	△14,366,949	△86,949
Ⅱ 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
(2) 特定資産取崩収入	19,792,000	19,790,647	△1,353
退職給付引当資産取崩収入	19,792,000	19,790,647	△1,353
投資活動収入計	19,792,000	19,790,647	△1,353
2. 投資活動支出			
(2) 特定資産取得支出	5,512,000	4,940,086	571,914
退職給付引当資産取得支出	3,862,000	3,291,620	570,380
減価償却引当資産取得支出	957,000	955,466	1,534
什器備品取得支出	693,000	693,000	
投資活動支出計	5,512,000	4,940,086	571,914
投資活動収支差額	14,280,000	14,850,561	570,561
Ⅲ 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計			
2. 財務活動支出			
財務活動支出計			
財務活動収支差額			
Ⅳ 予備費支出			
当期収支差額		483,612	483,612
前期繰越収支差額	34,979,000	43,175,473	8,196,473
次期繰越収支差額	34,979,000	43,659,085	8,680,085

収支計算書に対する注記

1 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、未払消費税等、預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
現 金 預 金	33,052,151	47,209,561
未 収 金	15,307,462	16,155,147
前 払 金	70,000	70,000
合 計	48,429,613	63,434,708
未 払 金	3,788,280	18,178,594
未 払 消 費 税 等	744,100	887,900
預 り 金	721,760	709,129
合 計	5,254,140	19,775,623
次期繰越収支差額	43,175,473	43,659,085

4 監 査 報 告

監 査 報 告 書

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

理事長 阿 部 幸 弘 様

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

2. 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実
は認められません。

（2）計算書類等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和 5 年 5 月 19 日

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

監 事

2719

歳



監 事



児五真史



資 料 編

1 理事・監事・顧問・参与・評議員名簿

(令和5年3月31日現在)

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	阿 部 幸 弘	こころのリカバリー総合支援センター所長
副理事長	松 原 良 次	北海道精神病院協会会長 札幌花園病院院長
常務理事	蓑 島 信 彦	北海道精神保健推進協会事務局長
理 事	高 橋 義 人	北海道精神神経科診療所協会会長 桑園メンタルクリニック院長
理 事	小 出 英 子	NPO法人オーク会副理事長
理 事	人 見 嘉 哲	北海道保健福祉部技監
理 事	大 谷 聡 美	札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部長
理 事	中 村 未太郎	北海道精神障害者家族連合会会長
理 事	南 部 賢	北海道中小企業家同友会札幌支部インクルーシブ委員会委員長 光情報通信株式会社代表取締役
監 事	竹 内 巖	北洋銀行常勤監査役
監 事	兒 玉 真 史	北海道新聞社常勤監査役
評 議 員	石 山 貴 博	NPO法人精神障害者回復者クラブすみれ会副理事長
評 議 員	大 澤 恵留美	北海道大学病院リハビリテーション部技師長
評 議 員	岡 崎 大 介	北海道精神保健福祉センター所長
評 議 員	鎌 田 隼 輔	札幌市保健福祉局精神保健福祉センター所長
評 議 員	菅 原 悦 子	NPO法人札幌市精神障害者家族連合会会長
評 議 員	善養寺 圭 子	
評 議 員	池 田 桂 子	こころのリカバリー総合支援センター「リラの会」会長
評 議 員	矢 部 滋 也	一般社団法人北海道ピアサポート協会代表理事
評 議 員	田 中 美奈子	こころのリカバリー総合支援センター医療参事
評 議 員	土 肥 一 一	こころのリカバリー総合支援センターOB会会長
評 議 員	西 村 正 樹	認定NPO法人DPI (障害者インターナショナル) 日本会議 副議長

2 財団法人設立から、今日までの経過等

昭和62年	7月 7日	財団法人設立準備委員会発足 (第1回会議)
〃	8月10日	財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立準備委員会 (第2回会議)
〃	8月11日	財団法人北海道精神保健推進協会 (仮称) 設立発起人会 (設立総会)
昭和62年	8月20日	民法第34条の規定に基づく財団法人北海道精神保健推進協会設立許可申請
〃	9月 1日	同上許可 (北海道知事)
〃	9月 1日	財団法人北海道精神保健推進協会事務局設置
〃	9月10日	法人登記

平成 元年	2月16日	「札幌デイ・ケアセンター」開設
〃 21年	4月 1日	「こころのリカバリー総合支援センター」に改称
〃 24年	4月 1日	財団法人から公益財団法人へ移行
〃 26年	6月16日	就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」開設
〃 28年	6月16日	就労移行支援事業所「ここスタ」開設
〃 28年	6月16日	相談支援事業所「ココクル」開設
〃 30年	4月 1日	就労定着支援事業所開設（こころカ・プロダクション内）
令和 2年	4月 1日	就労移行支援事業所「ここスタ」の名称を多機能型事業所「こころカ・プロダクション」に統一

3 施設の概要

(1)「こころのリカバリー総合支援センター」

所在地 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号

建物構造 鉄筋コンクリート1部2階建

面積	敷地面積	4,819.66 m ²
	建築延面積	1,793.7 m ²
	・管理訓練棟	1,315.5 m ²
		（うち90.7 m ² を「ここスタ」「ココクル」で使用）
	・体育館	463.20 m ²
	・附属建物	15.00 m ²
付属設備	テニスコート	1面

(2)「こころカ・プロダクション」

所在地 札幌市白石区平和通15丁目北13番18号

建物 民間住宅借上 木造3LDK 90.26 m²

4 基本財産

基本財産の総額は5,000万円で、すべて関係団体の寄附金及び北海道、札幌市からの出捐金であり、その内訳は次表のとおりである。

(単位：円)

機 関、団 体 名	金 額
北海道精神病院協会	10,000,000
北海道精神障害者家族連合会	10,000,000
札幌市婦人福祉推進協会	10,000,000
北海道	10,000,000
札幌市	10,000,000
計	50,000,000